NPO法人棚田ネットワーク会報紙　第65号

棚田に吹く風

2009
6月号
Vol.65
隔月刊

特集　企業の社会貢献活動と棚田

どんな活動のカタチがあるの？

今回の表紙

「アストラゼネカ株式会社のCSR活動（愛媛県西条市千町 棚田の草刈り）」

最近、よく耳にするようになった『CSR（Corporate Social Responsibilityの略）』という単語。これは『企業の社会的責任』という意味で、「企業は自らの成長だけでなく、社会全体に対して責任を持ち、持続可能な未来を社会と共に築いていくものである」という考え方。アストラゼネカ社では年1回「C-day」として、全従業員が棚田をはじめとする全国の農山村地区を訪問、CSR活動の一環として農作業や清掃などの地域支援を行っている。

（2ページからの特集で詳しく紹介）

棚田に吹く風 6月号　目次

4 シリーズ 棚田・里山からのたより
静岡県浜松市
白櫃（しらかし）の棚田
『里山元気もりもり隊』

6 連載 樫原の稲作日記
ブック＆ムービーレビュー

7 青柳健二の「世界の棚田から」
田んぼの生き物たち

8 棚田博士は今日も行く
新潟県長岡市「北荷頃の棚田」

10 棚田調査プロジェクトレポート

11 棚田ネットワークプロジェクト＆トピックス
・恵那プロジェクト
・大阪プロジェクト
・茂木田植え体験イベント報告

特集

企業の社会貢献活動と棚田

どんな活動のカタチがあるの？

ここ数年、一段と注目されるようになってきた企業の社会貢献活動。そのカタチは『ボランティア』としての活動から『農山村地区の方々とパートナーとして事業を進める』など様々。今回は三つのカタチをご紹介します。

カタチその1 CSR活動

全従業員参加のC-day※から棚田・中山間地域への『応援の輪』を広げたい。

アストラゼネカ株式会社からCSR活動の報告です。

2006年よりCSR活動の一環として、棚田ネットワークの全面協力をいただき、「高齢化する村を応援するプロジェクト（C-day）」を開始。毎年秋の1日を全社休業日とし、全従業員約3000人で全国58ヶ所（09年）の棚田地域など農山村へ伺い、①農作業・山仕事などのお手伝い②独自に開発した「アストラゼネカオリジナル体操」による健康支援　③昼食や懇親会を通じた地元の皆さんとの交流　の3つを柱とする活動を行っています。

受入地をキャプテンが事前訪問

活動を受け入れていただいている全国58の地域（受入地）のほとんどが、このような企業ボランティアの受け入れは初めてとのことでした。そこで、初めてでも可能なよう、受入地のご負担が最小限で済むようにプロジェクトを進めました。

重要なポイントの一つが、各地域に伺う社員のチームリーダー（キャプテン）が事前に訪問し、作業場所を見学、地域の代表者の方々と具体的な打ち合わせをすることです。これによって、地域のニーズや気候に合わせて柔軟にプロジェクトを企画することができます。例えば、開始時間をずらしたり、懇親会やゲームを企画したり、有意義で楽しい1日となるように企画・実施します。このキャプテンたちは、自ら立候補、事前に一斉研修に参加し「棚田地域の現状と課題」や「企業ボランティアの意義」について中島先生やボランティアの専門家から学んだ意欲溢れる社員です。

広がるC-dayの輪

毎年活動実施後に、受入地の皆さんと社員にアンケートを取っていますが、共に大変満足度の高い結果となっています。受入地の皆さんからは、「高齢化で、ほとんど70歳以上の年寄りが棚田での農業に従事しています。草刈作業が1回でも少なくなることは、とてもありがたいことです」「本年3枚分の復田、今までで8枚の復田となりました」「アストラゼネカ社員の皆さんの熱心な活動の賜物と感謝し、せっかくの活動を無駄にしないよう、『住民一丸となってこれ以上の荒廃を食い止め、美しい棚田を守ろう』との機運が高まっています」等の嬉しい声をいただいています。

社員アンケートでは、半数以上が「農山村やそこに暮らす人々への関心が高まった」と回答し、少数ですがC-dayで訪れた地域に家族を連れて再訪する社員も見られるようになりました。

また、毎年約50件、全国の新聞やテレビニュースで取り上げられています。09年3月には、「第6回オーライ！ニッポン大賞」（農林水産省等が主催し、全国の都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取り組みを表彰するもの）を受賞しました。

このように広く社会にもC-dayの輪が広がっていき、たくさんの人が棚田や中山間地域の問題に目を向けるきっかけとなることも期待しています。

［アストラゼネカ株式会社　CSRマネジメント部　小野　亜希子］

左／福岡県うきは市葛篭（つづら）棚田。作業後の集合写真
中／地元の方と一緒にオリジナル体操
右／長野県千曲市姨捨棚田で稲を運ぶ

アストラゼネカ株式会社
医療用医薬品の開発・製造及び販売を行う、英国に本社を置くグローバル製薬企業
http://www.astrazeneca.co.jp/csr
C-dayに関するお問い合わせ先：akiko.ono@astrazeneca.com

※C-dayはContribution-dayの略です。

カタチその2
社会貢献事業
居酒屋チェーンの実績を活かした『農業フランチャイズ事業』
エコファーム・マルシェ株式会社 梶谷社長にお話を聞きました。

エコファーム・マルシェ株式会社は、八剣伝、酔虎伝などの居酒屋チェーンを展開するマルシェグループの子会社で、主な事業目的は棚田米の生産販売である。

大分県由布の棚田を拠点に、2005年7反の荒廃田から毎年4反ずつ復田し、今年は1町9反まで耕作地を広げていく。「農家が食べていけるようにするのが本当の棚田保全」と言い切る代表取締役の梶谷一二三さん。その言葉通り、地元の農家を社員として雇用した上で、棚田復興を事業として行っている点がユニークである。

梶谷社長はもともとマルシェグループの社員ではなく、捕鯨母船などの船舶機関士から食品営業に転身という経歴の持ち主。環境問題と食糧自給について考えるうち、田舎で自給自足生活を始めるが、その頃マルシェグループの谷垣社長と意気投合し、会社設立の運びとなった。

飲食業の生命線は「安心・安全」な食材の確保。そのためには生産者の顔が見えることが第一だが、生産者不在による「耕地放棄」や「里山荒廃」が進行している。この状況を打破し、生産地の復興と食材の確保を両立させるのがエコファーム・マルシェのミッションである。

「買い取り保証という形でそれを実現する」と梶谷社長は続ける。昨年は50トンもの米を自社の棚田と周辺の棚田農家から買い取り、マルシェグループに販売、系列のオーガニックレストラン"SOLVIVA"などで使われた。しかも買い取り価格は通常より高く、マルシェグループもディスカウント要求をしないばかりか、この棚田米を環境に配慮した付加価値の高い自社製品として、株主優待に使っている。ちなみに棚田米の名前は「天使の分け前」。可能な限り農薬や化学肥料に頼らず、自然からの恵みをそのまま頂戴する、という意味が込められている。

今後は、大分でほぼ完成したこの「農業従事者採用→買い取り保証→提携企業へ販売」のビジネスモデルを「農業フランチャイズ」として全国展開していく。その布石として、同じ棚田地域で築百年の古民家を再生した「楠（くすのき）山荘」を開設、農業を始めたい人のための研修所とするほか、棚田米の売り先を拡大するため、マルシェグループ以外の企業や団体の開拓も進めている。

「ボランティアはほんとの救いにはならない。社会貢献"事業"でなくてはならない」。そう話す梶谷社長は、ソーシャル・アントレプレナー（社会起業家）というべき存在で、今後の動きから目が離せない。

［聞き手・中崎 義志晴］

上／大分県由布の棚田が生産拠点
下／棚田での草取り作業

エコファーム・マルシェ株式会社
http://www.marche.co.jp/contents/eco/
成長記録のブログや活動についての詳細が、ホームページで紹介されています。

カタチその3
受け入れ側から
複数の企業の『CSRや研修、農業体験』を受け入れる。
新潟県「十日町市地域おこし実行委員会」の場合。

棚田ネットの池谷プロジェクトでお馴染みの「十日町市地域おこし実行委員会」が、初めて企業のCSR活動としてモルガンスタンレー社のボランティアを受け入れたのは、2006年6月。中越地震から1年半後でした。それ以来、年に数回、アストラゼネカ、フェデックス、日本郵船などの社員を受け入れています。

受け入れの形は、1社単独のボランティア、ワークショップを含む新入社員研修、一般市民も一緒に募集する農業体験など。実施する作業も田植え、草刈り、畑での苗の植え付け、山道の手入れなどさまざま。すべて複数年度にわたる取り組みです。戸数わずか6軒の池谷集落では普段手の回らないところも多く、「来てくれることがわかっているから当てに出来る」という面があります。また、受け入れた結果、施設改修のための寄付をもらったり、お米の売り上げが増えたりという波及効果もありました。

集落の人たちの「何とか感謝の気持ちを表現したい」という歓待が、訪れる側の「本当に役に立っているのか、負担をかけていないか」という気遣いを生んだりもしましたが、繰り返し企画し率直に話し合える関係が育つ中で、少しずつ修正されています。

［編集部］

上／棚田の夏の風景
下左／収穫後の狭掛け作業
下右／棚田での田植え

貴重な地域資源・棚田跡を復元し、地域の宝物に

白檮（しらかし）の棚田『里山元気もりもり隊』

静岡県浜松市北区引佐町

里山は棚田だらけ

静岡県西部に広がる浜名湖の北東約6キロメートルに、標高359・1メートルの竜ケ石山（りゅうがしやま）があります。この里山の南側に田畑（たばたけ）という小集落があり、山林内のいたる所に数多くの棚田跡が存在します。その多くは今から40～50年前の高度成長期に耕作放棄されたもので、後に植林された所もありますが、ほとんどが雑木の生い茂る荒れ地となっています。

白檮（しらかし）の棚田は、標高200～250メートルに拓かれており、田畑地区では最も高い所にある棚田跡です。白檮（しらかし）は「しる（汁）＝水、しろ＝山腹の平坦地、かし（傾）＝傾いた」に由来する「水の湧き出る山腹の傾斜した平坦地」を意味する小字で、興味深いことに、この棚田を下方から見上げると、まさしく景観そのものが「橿」の字に見えてくるから面白いです。白檮地区のさらに下部に続く白檮下地区の棚田跡を含めると、全体で数百枚の棚田跡が存在すると思われます。

棚田の米は、うまい

「これは、地域の宝物だ」

荒れた山林内で見た棚田跡の景観は、衝撃的でした。数トンはあろうかと思われる大石を取り込み累々と積み上げられた畦石群に、先人の苦労が偲ばれ言葉も出ませんでした。

〝これらの棚田跡の一部でも、何とか復元することができないものだろうか〟　3年前の初春のこと、村の寄り合いで一人の長老に相談したところ、「やる気さえあれば、棚田の復元なんてそう難しいことではない」との返事が、あっさり返ってきました。「よし！」とばかりに数日後には、発起人5名で地域おこしグループ「里山元気もりもり隊」を発足させました。雑木と雑草で埋もれた棚田の復元は容易ではありませんでしたが、直径10センチを超える雑木を伐採し雑草を刈り払うと、畦石が姿を現し少しずつ棚田らしくなってくるので張り合いがありました。

田起こしや代掻き作業を経るうちに参加

者も少しずつ増え、5月の田植えには地域内外から15名の参加がありました。好意で頂いた苗を植え、防獣用の電気柵も無償で借用するなどしながら10枚（10アール）の復田に成功し、秋には6俵の米を収穫することができました。冷たい湧水と里山の落ち葉が生み出す養分、そして狭掛けで陽をいっぱいに浴びた米の味は、格別でした。

自然との共生、イノシシも仲間？

2年目の昨年は、25枚（20アール）の復田に成功し、姿を現した棚田は50枚を超えるなど、なかなか棚田らしい景観になってきました。

秋の収穫期を迎え、待ちに待った稲刈り予定日のまさに一週間前の朝、携帯電話のベルが鳴りました。

「夜に猪が入って、田んぼがめちゃめちゃだよ。全滅だよ、全滅」

荒らされた田んぼを見た一同は、がっかりして首を稲穂よりも深く垂れたのでした。

「荒らされて　こうべを垂れる仲間かな」

と、つい呟いてしまいました。数日前から猪の侵入する兆候があったのに、一年目にあまりにスムーズに収穫できたため、油断してしまった結果です。自然は、甘くはありませんでした。仲間が、悔しさをこらえて言いました。

「猪も仲間と思って、諦めるしかないね…」

人と自然との共生は、なかなか手ごわい課題です。

棚田は農村文化伝承の場

現在、里山元気もりもり隊の登録会員は30名を超えました。会員といっても会則らしい会則も無く、入会も退会も自由。代掻きや田植え、稲刈りなどの主な行事を除くと、好きな時に来て好きな時間だけ作業をして帰るという、いたって緩やかな会です。

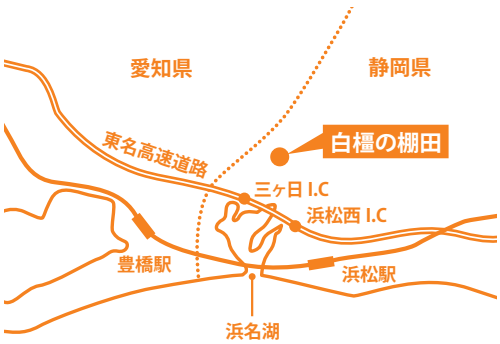
昨年は、訪れるハイカーに休んでもらおうと、周辺山林の間伐で得た丸太でオープンデッキを作りました。手間がなく間伐できずにいた山林地主さんにも、ハイカーにも喜ばれました。メンバーは気ままに大工仕事をこなし、心地よい汗を流し、冷たい湧き水で喉を潤し、そしてそれぞれ充実感をもって家路につきます。まさに、一石三鳥です。

棚田の復元が進むと、春に蛍の乱舞が見られるようになり、夏には蛙の大合唱が谷間に響き渡り、秋にはトンボがこれまでにも増して飛び交うようになりました。

満足な道具のない時代にあって山の急斜面を切り拓き、数トンはあろうかと思われる大石を動かし築き上げた棚田には、先人の汗と知恵が込められています。棚田跡の復田作業は、単に里山景観の復元・保全にとどまるものではなく、山村に何百年も連綿と受け継がれてきたもの、ともすれば忘れがちな住民同士の共助のあり方を今に伝える、農村文化の伝承活動でもあると言えるでしょう。

（奥浜名湖田園エコミュージアム推進会議 会長　小野寺秀和）

右／田起こし作業
左／代掻き作業



浜名湖の北に位置する奥浜名湖エリアの観光地として知られる竜ヶ岩洞、その西側に広がる山間地域に白檀の棚田はあります。

■ 棚田へのアクセス

【自家用車】東名高速道路、「浜松西 I.C」もしくは「三ヶ日 I.C」より約30分

【公共交通】①浜松駅バスターミナルより、「奥山」行きで約50分、「竜ヶ岩洞入口」下車。徒歩45分。

②天竜浜名湖線「金指（かなさし）」駅下車。「奥山」行きのバスで約 15 分。「竜ヶ岩洞入口」下車。徒歩 45 分。

■ お問い合わせ

【里山元気もりもり隊】
☎053-543-0108 事務局担当（竜ヶ岩洞内）: 小野寺秀和
【元気もりもり隊ホームページ】
http://www.doukutu.co.jp/satoyama-genki.html

Tales of Kashihara Tanada

棚田百選

樫原の稲作日記

第二回　田植え準備で早や時間給水が

徳島県上勝町
樫原の棚田村

谷崎　勝祥　71歳

地域の上と下で標高差が200㍍もあるので、上の田と下の田で水利が大いに違ってくる。今年のように降水量が少ない年には、標高700㍍あたりでは大雨が降らないと耕作不能の田圃が出そうだ。5月17日の低気圧でも、風はだいぶ吹いたが、雨は服が濡れる程度であった。

苗代の籾が芽を出し成長している間に、本田の準備が進められる。田の面積より畦畔の面積が広いような畦畔の草を刈って水田に入れ、10㌢位にカットして田づくりの時に土にまぜて肥料に。あぜぞりをして、田の両端の土を手ぐわで掘り起こして耕耘しやすくし、畦のもぐら穴をふみかためて水を入れ始める。水の便が良い田は早く貯水できて田づくりができるが、水の便の悪い田は大変である。例えば、幅2㍍・長さ50㍍の細長い田で、20㌢溜まれば耕耘機でその部分だけを練り、あと水が溜まるのを待って、10㌢溜まれば10㍍を練り又待つ。そうして10㍍、50㍍と水が伸びて行くのを待ちながら、田づくりをして行く。そんな田づくりを「折り耕（づ）くり」といって燃料は高くつくが、全体に水が溜まってから「つくる」と言っていては、大雨が降らないと耕くれない。

水の便の良い田と悪い田では、山の上の方では大変な違いがある。5㌶で500枚の棚田、細い用水路25本の中には、水の便の「良い」「悪い」で大差がある。樫原の棚田の80％は水が張られているが、あとは「雨」を待っている。上部の棚田では二班に別れて交代で、早や「田づくり」の段階で「時間給水」が始まっている。

上／播種後15日10㌢位
下／樫原の棚田の上部

編集部イチオシ! BOOK & Movie

BOOK

『森と棚田で考えた ～水俣発 山里のエコロジー～』

沢畑亨 著

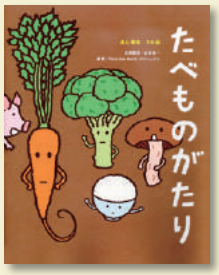
¥1,680（税込）
不知火書房
2005年12月発行

全国公募で水俣市の地域おこし施設・愛林館の館長になってから10年間に書いたものを集めた本。山村で、木を植えて草を刈って蔓を切って間伐して炭を焼いて、棚田では稲を育て大豆を育て麦を育て耕作断念田の草を刈って、食べ物を作って、愛林館の運営をするという暮らしの中で、折に触れて感じたことが書かれています。「今後もこの調子で活動を続けたい」という〝名物館長〟です。

BOOK

『たべものがたり～食と環境 7つの話～』

企画監修　山本 良一



¥1,995（税込）
ダイヤモンド社
2009年3月発行

ビジュアル・エコブック　食と環境問題がみるみるわかる！（帯より）。たくさんの写真やイラストで、はらぺこの惑星、食べもの再発見、食と生命、食と人間社会、食と地球温暖化、食と学び、食の未来についてとても分かりやすく書いてある。親子で読んだりながめたりするのにピッタリ。お薦めの一冊です。

青柳健二の 世界の棚田から

○青柳健二

1958 年山形県河北町生まれ。学生時代、欧州を旅行中に偶然本屋で見た写真集に興味を覚え、大学卒業後写真を独学。アジア各国を取材旅行する中で、中国・雲南省で偶然出会った棚田の美しさに衝撃を受け、以来 10 年以上、日本・アジア・アフリカの棚田を撮影し続けている。著書に『日本の棚田百選』(2002, 小学館)、『アジアの棚田 日本の棚田』(2004, 平凡社)、『棚田を歩けば』(2007, 福音館書店) など。URL は http://www.asia-photo.net/

ベトナム・サパ

ベトナムは南北に長い国である。南部のメコンデルタでは、米の 2 期作、3 期作も行われているが、北部の山地では棚田を作っている。

サパは標高1500㍍ほどの高地にあり、モン族、ザオ族などが住んでいる。モン語のチャパ（霧の町）に由来するとの説もある。それだけ霧の多い町だ。

モン族は、中国・清の時代に、差別や貧困から逃れて北ベトナムへ南下してきた。生きるために鬱蒼とした森林を切り開き、山の斜面を棚田に変えていった。棚田の畦道は不規則な形で連なり、幻想的な雰囲気だ。

サパは今、外国人観光客で賑わっている。棚田を作っていたモン族のおばさんと話をしたとき「最近、土産物を作るのが忙しくて、田んぼの仕事をしてる時間がなくなってきたよ」と、流暢な英語で言ったのを聞いて、複雑な思いがした。

田んぼの生き物たち

第14回

キジ

昔話の「桃太郎」で、家来として一緒に鬼が島へ行ったキジ。すでに、「古事記」や「日本書紀」などにも登場していたキジは、世界中で日本にしかいない固有種の野鳥です。渡り鳥ではなく、一年中日本にいることや、姿の優美さなどから、戦後間もない1947年に日本の国の鳥「国鳥」に指定されました。

写真：桐原桂介

キジは、田んぼや畑や牧草地などで生活し、ミミズやケラ、草木の実を食べる雑食性で、人が維持管理している里山に高く依存して暮らしています。今の季節、畦の草刈りをしていたら、卵を抱いていたキジの親鳥が急に飛び出してきて、驚かされたという農家の方も多いのではないでしょうか。

以前、私は千葉の里山で休耕田に目立つ白い丸い模様が目に入りました。何だろうと近寄って見ると、それは雄キジの大量の羽が直径2メートルほどの円状に散らかって、白く見えたものだったのです。美しい複雑な模様の羽がそよ風に吹かれて軽く揺れていました。私は、夢中で羽を拾い集めました。おそらくオオタカにしとめられたのでしょう。里山で繰り広げられたドラマを垣間見たような気がしました。

国鳥のキジが息づく里山・山里環境を次世代にも残していきたいものです。

（自然観察指導員　桐原真希）

※4月号の連載回数の表示が間違っていました（第13回でした）。お詫びして訂正します。

棚田博士は今日も行く！

中島峰広の全国棚田行脚

魚沼丘陵にある普段着の棚田

新潟県長岡市北荷頃

新潟県の地図をひろげて見ると、坂一つない平坦地の水田が広がる越後平野の南に、棚田が卓越する魚沼丘陵と頸城丘陵が南北に長く伸び、信濃川を挟んで東西に対峙している。これら丘陵に挟まれた平野南端に長岡の市街地があるのに対し、北荷頃は東の魚沼丘陵の一角を占めており、平成の大合併までは分厚い油揚で有名な栃尾市に属していた。

越後交通の路線バスで北荷頃へ

08年9月、早朝の上越新幹線で東京を発ち長岡へ向かう。

長岡から栃尾までは、駅の東口と大手口から越後交通の路線バスが出ている。大手口からの見付経由（注1）に比べ、東口からの新榎トンネル経由は本数が8本と少なく不便であるが、栃尾までほとんど直線で結び、所要時間は半分、料金が安いうえに、下車地の本津川から1キロも歩かず北荷頃の中心部にたどり着く。

バスは、東口を出て東に進み、栖吉川を渡る。市街地の外れにある長岡中央綜合病院に立ち寄り、国道17号を北上、すぐに右折して国道351号を東に向かう。平坦地の水田地帯から丘陵地域に入り、長さ2.4キロの新榎トンネルを抜けると比礼。ここを過ぎると道路沿いに北荷頃の棚田が見えてくる。本津川のバス停で下車、坂道を下れば北荷頃の集落である。

中央部、東山、西山の3地域の棚田

集落は、標高200メートルほどの丘陵に囲まれ、西谷川の盆地状の谷間に横たわっている。戸数260戸、そのうち農家は90戸というから魚沼の農村でもかなり混住化が進んでいるといえる。農家は平均50アール前後の水田を所有し、ほとんどが市内の企業で働く兼業農家である。谷間の標高は100メートル前後、ここから丘陵の頂までの高度差100メートルの斜面に棚田が拓かれている。棚田は大きく分けると集落中央部、東山、西山の3地域に分かれて分布している。

集落中央部は字名で中崎と呼ばれ、川沿いは平坦地の水田、集落背後の丘陵斜面に点在して棚田がみられる。傾斜8分の1、土坡で築かれ、法面の高さは2～3メートル、一枚の大きさは10アール前後の田圃である。

東山は、字名が稲波。集落の東、スギ林の丘陵を越えた凹地を埋めるようにして数段の棚田が広がっている。傾斜7分の1、1枚の平均10アール以上、なかには30アールの広さのものもあり、法面は土坡、高さが3～4メートルはある。形は方形に近いものからローマ字のRに似たグランドピアノ田までさまざま。しかも段差があるので整然とした感じはない。ところどころに個人または共同で利用する溜池が設けられており、棚田の用水源となっている。

一方、西山は字名が門松。集落の西、低い丘陵の尾根を越えた稚児清水川源流の谷に棚田が拓かれている。3地域のなかでは景観的に最も見応えがある。比礼から本津川の間、国道516号に沿って長さ1キロにわたり、谷の両岸30～40メートルの高度差がある傾斜7分の1の谷斜面に10段前後の棚田が続いている。1枚の広さは1～2アールの小さなものから10アール以上の大きなものまでさまざまであるが、どちらかといえば大きな

■ 中島 峰広（棚田博士）

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。棚田学会会長。全国棚田（千枚田）連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田―保全への取組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』（以上、古今書院）。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

ものが多い。法面は土坡、高さが小さなものは1㍍、大きなものは4㍍ほどのものもみられる。比礼に近い西の棚田からは裾野をひく守門岳が眺められる。（注2）

現地で大崎さんの話を聞く

現地では、インターネットで棚田オーナーの情報を発信している大崎嘉昭さんに話を聞いた。大崎さんは63歳、市議を2期と北荷頃棚田連絡協議会の初代の委員長を務めた集落の重鎮、60歳の奥さんと3・5㌶の水田を耕作する専業農家である。（注3）

水田はすべて棚田、枚数が27枚で1枚の大きさは平均13㌃、そのなかには30㌃の広さのものもあるという。これらは、すべて2～3枚を1枚にする畝町直（せまちなお）しを行った結果であり、専業になってからは毎年収穫後の10月中旬から雪の積もる12月初旬までの期間、重機を使う業者を雇い畝町直しに終始してきたといっても過言ではないと仰しゃる。当地域の棚田が大きいのは、このようにして、事業によるのではなく個人の力で畝町直しが行われたことによるものと思われる。

使用する農機具は乗用型、33馬力の小型特殊トラクター、6条植えの田植機、3条刈のコンバイン、運搬具は1㌧積みの小型トラック。350㌔積載の軽トラックでは収穫物を運ぶのに手間がかかりすぎるという。これらを使用するために、農道を拡幅し砂利を敷いたそうだ。唯一歩行型の機械が除草機。螺旋状になった太い針金の爪で土を掻き回し、6条の株間を除草する機械、有機栽培に用いられている。

情報発信している棚田オーナー制は、中山間地域等直接支払いとの関連で02年に4戸の兼業農家を仲間にして3・5㌶の棚田で始められた。オーナーは、大崎さんの縁故者のほかホームページで募集、08年は36組、半分が縁故者で半分が首都圏、長野県、群馬県の人たちだそうだ。私が区分した類型では新潟県の頚城・魚沼地方にのみみられる飯米確保・交流型のオーナー制。面積1・5㌃・白米60㌔保証と面積3㌃・白米120㌔保証の2つのコースがある。会費は、有機栽培米か特別栽培米かで価格が異なり、有機栽培米ならば10㌔当たり9千5百円、特別栽培米ならば10㌔当たり6千5百円、したがって有機栽培米の場合白米60㌔では5万7千円、120㌔では11万4千円になる。オーナーの農業体験は田植えと稲刈り、08年の田植えには60名を超える人が参加したそうだ。

米づくりの熱気

有機栽培は有機肥料のみの使用、栽培を始めて3年目に民間の認証機関である「赤とんぼ」からJASの認証を得ている。認証を受けるには毎年7～8万円の費用がかかるそうだ。（注4）

特別栽培米は新潟県の認証を得たもので、そのシールを見せてもらった。一つは県名と県のロゴマークが入った認証書、偽物を防ぐために触れると新潟県の文字が一時的に消える仕組みになっている。もう一つは農薬と肥料の使用状況を示したもの。一般には農薬の使用回数は18回、化学肥料の使用量は10㌃当たり6㌔といわれるが、シールには農薬2回、肥料1・4㌔使用となっている。いずれも認証基準（農薬9回、肥料3㌔）の半分以下である。一般栽培では苗づくりの段階で農薬を4～5回使用するが、大崎さんは農薬を使用せず種籾を60℃の温水に10分間浸ける温湯消毒だけで済ませている。

さらに気を使っているのが米の品質管理。作業小屋には玄米200俵を貯蔵する低温（14℃）倉庫、精米機、石抜き機、色彩選別機まで設置されていた。（注5）これらの機械類を駆使して、オーナーには保証している60㌔と120㌔を12回に分け、毎月精米したての白米をそれぞれ5㌔と10㌔ずつ受け取り人払いで送っているそうだ。こだわりをもった米の栽培と収穫後の米の品質に細心の注意を払っている姿勢に、米づくりの熱気が感じられた。

これからの北荷頃の農業については、米づくりで生きるしかなく、仲間にした兼業農家の人たちの輪を広げるとともに、米づくりの技術をしっかりと伝え、彼らが定年後本格的な米づくりが始められるよう基盤

上／守門岳を望む西山の棚田
中／西山の棚田
下／大崎さん

を整えておきたいと仰しゃる。棚田オーナー制を立ち上げたのもそのためであり、さらに発展させるには都市住民との交流を盛んにする必要があるという言葉には力がこもっていた。

後日頂いた手紙は「棚田オーナー制や有機・特別栽培米の取り組みはなかなか思うようにはいかないけれども、放棄したらもはや中山間地棚田農業に生き延びる道はないのです。気張らずに生活を愉しみながら、自らできる範囲のことをやり続けていこうと思っています」とむすんであった。

［お詫び］4月号の記事中、平戸市大島支所産業課職員の方のお名前が間違っていました。正しくは久保川宏和さんでした。お詫びして訂正します。

＊注1 大手口からの見付経由は朝から夕方までの毎時00分、30分発の22便。本数が多く便利であるが、遠回りで料金が高く、しかも終点の栃尾車庫から北荷頃まで4㌔の道を歩くことになる。

＊注2 これら3地域の棚田は、西日本でみられるような、際立った存在で1点に集中し景観を誇っている棚田とは異なり、面的に広がり、着飾ることなく普段着の姿でいたるところに横たわっている。その姿は武骨で愛想はないが、骨太でがっちりとして頼もしい。それは、1枚が大きく、幅広の畦と巨大な法面をもち、不細工ながら1トン車が進入できる農道がつけられ、しっかりとコメが作られている棚田だからであろう。

＊注3 大崎嘉昭さんは、高校を終え法政大学に入学、卒業後東京の北里研究所に勤務、28歳のときに帰郷して地元の繊維会社に転職した。同時に父親を手伝い、機械で行う農作業を引き受けるようになり、40歳で繊維会社を退職してからは農業に専念、水田を買い増して0.8㌶から現在の規模にまで拡大したそうだ。

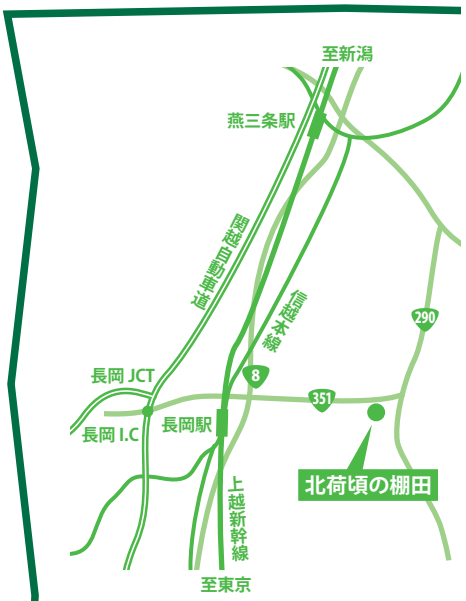
＊注4 有機栽培は、農薬を使用しないので除草に労力を要する。先述した除草機を用い、10日おきに4～5回の草取りが必要。同時に巨大な法面と畦の草刈りも3～4回行うので、イネの生育期間は草取りと草刈りに追われるとのこと。高さが3～4㍍の法面では3回に分けて草刈り作業を行わなければならないので、大変な労力、まさに雑草との闘いといえる。

＊注5 色彩選別機は、高温で登熟したときにできる白の斑点米（セジロ、ハジロ）や、カメムシに食べられてできる黒の斑点米を選別して除去している。

棚田博士は今日も行く！

今回の棚田へは…

新潟県長岡市 北荷頃



北荷頃のある旧栃尾市は四方を山で囲まれた自然豊かな山里です。豊かな水源に恵まれ、数多くの美しい棚田が残されています。

北荷頃へのアクセス

【自家用車】関越自動車道　長岡I.Cから国道351号を東へ進み、約15分

【公共交通】長岡駅から越後交通バス「栃尾車庫行き」で約20分、「本津川」で下車。

調査プロジェクトレポート

■調査プロジェクトってなに？

2008年春に三井物産環境基金の助成を受けてスタートした、3年がかりのプロジェクト。全国の棚田保全に関わるグループを訪問し、聞き取りなどを行います。それぞれの棚田地域には、それぞれの歴史や特徴、課題があり、それを記録・整理し、今後の棚田保全や、棚田地域どうしのネットワークづくり、農山村と都市の交流の構築などへ活用できるようにするのが目的です。毎号、このコーナーで調査チームのレポートをお届けしていきます！

2008年度の調査地域は10カ所 担当地区をきめて訪問しました。

1年目（2008年度）は、オーナー制度が行なわれているところ、棚田米の販売に取り組んでいるところ、その他棚田保全に積極的に取り組んでいる先進地など10地区を選び、7月～09年3月にかけ、各地区担当を決めて訪問しました。

お話を聞かせていただくのは、棚田保全組織の代表の方や協働している行政の方など。棚田保全の現状、活動の特徴・経緯、今後の展開や希望などをざっくばらんに語っていただきました。

やはりどこの地区も、高齢化、後継者不足は共通の課題で、後に続く人をどう芽生えさせるか、どのように引き継いで行くか苦労されているようです。

それから、財政の問題。経済効率の悪い棚田をどう存続させていくか、どこから運営資金を捻出するか、各助成金などをどのように活用できるかなど、なかなか難しいようです。

オーナー制度をすでに数年にわたって実施している地区などは、内容のマンネリ化と、オーナーの訪問回数が減少するなど悪循環がおこりはじめている地域もあるようです。高齢化や訪問する人・協力者の減少などは、棚田の耕作や維持に直接関わってくるわけですから、緊急に対策を考えなければいけない課題です。

11月の「棚田フェスティバル」では、各団体の代表者を招き、それぞれ現状や本音を語ってもらう「車座トーク」が行われました。2日目には、団体同士交流を持ってもらうため、数グループに分かれ、ディスカッションの場を設定、それぞれ調査メンバーが進行役となり、現状や課題、展望について熱い議論が交わされました。

1年目の調査を終えて感じたことは、こうした棚田地域の現状がオーナーや都市生活者などにきちんと伝わっておらず、協力や理解を得られていない部分が多々あるのではという点です。そういった意味でも、このプロジェクトを通して、情報を発信したり、交流イベントなどを積極的に行っていくことは、大きな意味があることだと感じています。

（久野　大輔）

Research Project Report 2009

～2008年度訪問団体～

①褄平棚田保全活動推進委員会（山形県朝日町）
②入郷棚田保全協議会（栃木県茂木町・石畑）
③特定非営利活動法人大山千枚田保存会（千葉県鴨川市）
④十日町市地域おこし実行委員会（新潟県十日町市・池谷）
⑤まつだい棚田バンク（新潟県十日町市）
⑥姨捨棚田名月会（長野県千曲市）
⑦石部地区棚田保全推進委員会（静岡県松崎町）
⑧特定非営利活動法人坂折棚田保存会（岐阜県恵那市）
⑨鞍掛山麓千枚田保存会（愛知県新城市）
⑩蕨野棚田保存会（佐賀県唐津市）

棚田ネットワーク Project & Topics

Project 岐阜県恵那市 棚田ビオトープ プロジェクト

３月「かえるの卵を探そう!」
５月 ビオトープで田植え

棚田ビオトープ管理（田植え）

第2回「かえるの卵をを探そう!」が3月21日(土)～22日(日)に開催され､中島代表をはじめ棚田ネットワークからも数名が参加しました。21日は坂折棚田全域を踏査し、この時期に産卵するヤマアカガエルの卵塊を探しました。結果8ヶ所で15卵塊を発見、棚田ビオトープでも2つ産んでいました。次の日は大雨。なごみの家で愛知県四谷千枚田保存会副会長の小山舜二さんの講義を受けました。カエルの生態から棚田保全の現状まで、名調子の語り口と素敵な写真を拝見、楽しい講義となりました。

５月22日は岐阜県立国際園芸アカデミーの学生が、あいにくの小雨の中、棚田ビオトープにて田植えを行いました。まずは昨年つくった「森林近くの棚田ビオトープ」で東海地方の棚田でよく栽培されるミネアサヒを植え､午後は一昨年つくった「渓流沿いの棚田ビオトープ」の畦畔の草刈りと、石積みの草取りをしました。ここでは昨年、赤米であるカンニホを栽培したため､そのこぼれ種がすでに「田植えをしたように」生育していました。

３年目の棚田ビオトープは、栗畑として休耕している所を利用しようと計画しています。興味のある方､ぜひご参加ください。　（相田　明）

Project 大阪市中央区 大阪プロジェクト

「棚田むすびの会」って？

「棚田むすびの会」ロゴマーク

大阪プロジェクトとは、関西の棚田ネットワーク会員が連携して、関西ならではの新しい風を起こそうという試みです。今回はその中心メンバーである「棚田むすびの会」をご紹介します。

「フェミニンな棚田保全活動をめざす」が棚田むすびの会のキャッチフレーズで、会長（扇田久美子）も女性、会員（2009年6月現在65名）も8割が若い女性というのが最大の特徴です。奈良県生駒市西畑、滋賀県大津市仰木など大阪近郊の棚田で、ボランティア活動や同会専用の田んぼを借りての米作りを行うほか、会員同士のおしゃべりの場「棚田ist（たなでぃすと）meeting」や、棚田のお米や野菜を使った食事会「棚田パーティ」など女性らしい活動が盛りだくさん。そこには堅苦しさや悲壮感はみじんもなく、扇田会長のキャラも手伝って、いつも“愛と笑い”にあふれた和やかな集まりになります。

関西在住の会員の皆さん、こんな棚田むすびの会の活動を覗いてみませんか？ ブログで情報発信していますので、まずは「棚田むすびの会」で検索してみてください。登録費･会費は無料、女性はもちろん男性の方のご入会も大歓迎です。(中崎　義志晴)

Topics 栃木県茂木町岩ノ作棚田 田植え体験イベント開催しました!

初めての試み!
マイクロバスを借り
総勢30名の参加
大人もこどもも大ハッスル!

５月17日(日)に棚田ネットワーク主催の田植え体験イベントが栃木県茂木町岩ノ作の棚田で開催されました。今年新潟で行われる予定の田植えイベントが中止になり、急遽企画したため４月号に掲載できず、会員の皆様へ会報を通じてお知らせできなかった事をお詫び致します。

今回は会の初めての試みとして、新宿の事務所発着のマイクロバスを借り切ったツアー形式の田植え企画でした。果たして人が集まるのかとドキドキしましたが、フタを開けてみれば、バス定員18席も満杯になり、マイカー現地参加者、スタッフ含めると総勢30名の華やかなイベントとなりました。

バスの中では、今回体験田を用意してくれた茂木プロジェクトのリーダー安井一臣さんが、手作りクッキーを賞品に、棚田やお米、農業についての面白クイズを投げかけ、お子さんも大人も大ハッスルでした。

実は当日の天候は荒れ模様で、東京から茂木までの移動中も雨が降りしきり、果たして現地で田植えが可能なのか心配したのですが、参加者の皆さんは気にもせず、当たり前のようにレインコートに身を包み、楽しげに現地へと繰り出すのでした。

田んぼに着いてみると不思議と雨は止み、うっすらと日がさすこともありました。岩ノ作棚田のある小深集落の方の指導により、皆さん裸足になっていよいよ開始です！ 田植え初体験の参加者ばかり、少々不揃いですが黙々と植えて、終わってみれば予定の倍の4㌃ほどが済んでいました。

その後、周囲を散策して、現地のお母さんたちの手作り郷土料理！ 棚田米の炊き込みごはん、お赤飯、朝採りタケノコ、うどんの入ったキノコ汁などなど、食べきれない程の絶品の品々に参加者は大喜びでした。小深集落の皆さん、本当にありがとうございました。

バスツアー形式の茂木イベントは、もちろん「稲刈り」も予定しています。その他にも体験田の管理や岩ノ作棚田を維持するボランティアなども随時募集していきますので、ご期待ください。

（高桑　智雄）

法人会員紹介：株式会社成川米穀

米・玄米通販　らいすママ

http://www.ricemama.com/

らいすママは棚田を応援しています!

らいすママでは、近年高齢化や減反政策で消えつつある日本の原風景「棚田」を応援するため、
棚田米の積極的な販売を行っています。 美味しい棚田米を食べて、棚田を守ろう!

写真：棚田 一郎

今月のおすすめ商品!!

新潟県十日町市松代

星峠の棚田絶景米

NHK大河ドラマ「天地人」のタイトルバックでお馴染みの絶景棚田・星峠だけでとれた純粋棚田米、もちろん1等米の魚沼コシヒカリ!

■**素のまま玄米**（30kg）
¥19,800 ⇒ SALE ¥18,800

※「素のまま玄米」は、当店契約農家の玄米30kgを未開封で蔵出しした格安直売米です。そのまま蔵出しのため格安にて販売しております。未開封ですので、モミ殻・石抜きが未処理です。ご了承下さい。

■**クリーン玄米**（5kg） **¥3,300**

株式会社 **成川米穀**

●本社 神奈川県川崎市川崎区貝塚1-12-11
TEL.044-233-3690（代）
FAX.044-211-8308

お問い合わせ
フリーダイヤル：0120-41-5818
E-mail：info@ricemama.com

棚田の応援団 わたしたちと〝棚田の応援団〟やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい"棚田"をどのように保全していくことができるのでしょう? 一緒に考えませんか? ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!
会報紙「棚田に吹く風」（年6回）やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト（イベント）への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費
○個人会員
維持会員　1口1万円（1口以上）
一般会員　3,000円
学生会員　2,000円

法人会員も募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまも募集しています。
詳細はお問い合わせください。

年会費
○法人会員
1口３万円（1口以上）

この上のスペース（ページ上1/2サイズ）は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。是非ともご入会ください。お待ちしています。（詳細はお問い合わせください）

編集部から

発送封筒を大きくしました!

前号からリニューアルした会報を折らずに届けて欲しいという多くの会員さんの要望に答えて、今月号から封筒を大きくして皆様にお届けする事が出来るようになりました。「もっと早くすればよかったのに?」とお思いになる方もいるでしょうが、A4サイズの会報が入る角2封筒を業者に依頼すれば、口ゴ印刷やノリ付きのオプションを含めると、到底今の会の財政では贅沢品なのです。

なぜ今回封筒を大きく出来たのか。それは、安価な茶封筒を購入し、事務局のプリンターで口ゴ印刷、両面テープを購入してノリ付け部分を内職のように製作し、何とか前の封筒の経費を超えずに済ませたというわけ。それもこれも事務局に、日常業務をこなしてくれるスタッフが増えつつある今だからこそ出来る事なのです。事務局は今どんどん日常業務が増えています。皆さんお気軽に手伝いに来てください!

ウェブサイトも見てください!

棚田の基礎知識や、棚田ネットワークの活動内容、イベント情報、ブログなど、盛りだくさんの情報を発信しています!
是非のぞいてみてください!

www.tanada.or.jp

ブログも随時更新中!

棚田に吹く風
2009年6月号 Vol.65

発行 特定非営利活動法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail：info@tanada.or.jp　URL：www.tanada.or.jp